

Check (検証) 生徒の実態・本校の課題

【確かな学力】

【標準学力検査 教研式CRT 第1学年・第2学年】(R6年4月実施) *色付は注意を要すると考える点

1年生		領域別得点率				観点別得点率				平均得点率
科目	得点率	読解・記述	読解・判断	読解・表現	知識・技能	思考・判断	思考・表現	思考・表現	思考・表現	平均得点率
国語	79.9	59.8	67.4	69.4	61.5	72.5	68.4			
	全国比	105	104	108	100	110	93	105		
社会	61.7	51.0	51.1	54.7	55.6	48.3	55.2			
	全国比	99	88	103	95	95	88	95		
数学	68.1	63.0	53.0	44.4	63.0	51.5	78.7	57.2		
	全国比	106	105	95	102	100	109	93	103	
理科	66.7	65.1	60.4	69.7	73.4	58.8	76.4	66.1		
	全国比	106	95	97	96	99	98	93	98	
英語	83.4	67.5	70.6	59.5	69.1	71.4	70.8	70.3		
	全国比	106	106	95	103	101	104	90	103	

2年生		領域別得点率				観点別得点率				平均得点率
科目	得点率	読解・記述	読解・判断	読解・表現	知識・技能	思考・判断	思考・表現	思考・表現	思考・表現	平均得点率
国語	66.7	43.2	60.9	57.0	56.8	63.0	57.0			
	全国比	94	86	99	89	98	82	93		
社会	56.0	46.2	51.1	56.0	48.6	62.4	52.3			
	全国比	89	85	94	94	84	80	89		
数学	44.9	42.2	45.8	46.1	36.3	66.9	41.2			
	全国比	80	72	95	81	74	88	78		
理科	53.2	49.0	62.6	59.6	52.4	64.6	56.1			
	全国比	94	84	102	98	97	82	98		
英語	56.4	54.0	54.8	60.9	42.6	59.0	51.8			
	全国比	88	83	89	88	75	76	82		

○分析○

- 1年生：教科・領域別では社会科（特に歴史的分野）を除き、基礎的・基本的な事項の習得が認められる。一方、観点別では【主体的に学習に取り組む態度】における数値が低い。
- 2年生：教科・領域別では、データを活用したり書いたりする活動や、数学において課題が見られる。観点別では、【思考・判断・表現】の数値が低い（ただし、昨年1年次の数値より改善）また、【主体的に学習に取り組む態度】の数値が低い。

【第3学年全国学力学習状況調査】(令和6年4月18日実施)

平均正答率	本校	北海道 (公立)	全国 (公立)
国語	56	58	58.1
数学	50	51	52.5

	分析	対策
国語	<ul style="list-style-type: none"> 知識及び技能に関する問題での正答率は半数を超えているものが多かった。その中でも、文法に関する問題の正答率は低かった。 思考力・判断力・表現力の読むことに関する問題の中で、図から読み取ったり、詩の描写から読み取ったりする問題の正答率が低かった。 観点に関わらず、記述式で回答する問題の正答率が低い傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃から漢字や文法などの基本的な知識について学習し、基礎基本を徹底させる。 思考力・判断力・表現力の読むこと・書くことに関する分野の力を身につけさせるために、文章の内容を図で表わしたり、図から内容を読み取ったりする機会を増やす。 条件付きの作文や要約する機会を増やし、教師による添削や自身の推敲を通して書く力を身につけさせる
数学	<p>知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> 分野問わず正答率が半数を超えたものが多い。北海道・全国と比較してもやや上回るものが多かった。 具体的な数では考えられるが、文字を用いて表現する問題や用語の意味をとらえ間違えて解いている問題の正答率が低いのが課題である。 <p>思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> 記述式問題での説明が不十分である。北海道や全国と比較しても正答率が15%~20%ほど低い結果であった 「数と式」や「データの活用」……情報の読み取りはできているが、数学用語を用いて表現できていない。 「図形」……仮定や問題文の図形から読みとれることを、根拠を示さずに記述しているため、見直しをもって問題に取り組むことが必要である。 「関数」……グラフや式を使って解くことは記述されているが、それらを利用し、どのような方法で解くのかを明記されておらず、正答率は0%であった。 	<p>知識・技能の観点では具体的な数から文字に置き換えて考える一般化を意識させることが重要である。公式の暗記だけでなく、公式の成り立ちなども大切にしていきたい。</p> <p>また、思考・判断・表現の観点では、記述式に対しての苦手意識を減らすために、穴埋め問題から徐々に記述の部分も多くしていく問題を取り入れていく。さらに、問題文から読み取れる情報を整理し、その情報をどう活用して説明するかを入試の過去問などを利用して練習させていきたい。</p>

【豊かな心】

【第3学年全国学力学習状況調査】（令和6年4月18日実施）

全国平均と比較して着目すべき数値が出ている項目（○）や低い数値が見られた項目（△）

※数値（％）は、「当てはまる」と回答した生徒の割合

番号	種別	質問内容	本校	全国平均
1	○	自分には、よいところがあると思いますか	53.3	40.4
2	○	将来の夢や目標を持っていますか	60.0	36.1
3	○	人が困っているときは、進んで助けていますか	46.7	38.3
4	○	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	86.7	77.5
5	△	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	20.0	30.3
6	△	友達関係に満足していますか	40.0	55.0
7	△	学校に行くのは楽しいと思いますか ※「どちらかと言えばあてはまる」を含む	73.3	83.8

1⇒「どちらかといえば、当てはまる」まで含めると86.6%。自己肯定感の高さがうかがえる。

2⇒数値的には突出して高いが、生徒の実態を鑑みれば「具体的な道筋を備えた夢や目標をもつ生徒」「具体的にいうよりは単純に将来に対して楽観的な生徒」の両者が混在していると考えられる。

3⇒「どちらかといえば、当てはまる」を含めると100%を達成。一人一人は優しい生徒が多い学年である。

4⇒「当てはまらない」を選択した生徒は0人。いじめ撲滅集会等での働きかけが影響したとも考えられる。

5・6⇒どちらも全国平均を10%以上下回る。自己にくわえ他者を受容・肯定できる働きかけが課題となる。

7⇒「当てはまる」の全国から-3.5%、「どちらかといえば、あてはまる」は全国から-7%。項目5・6と関連があるとすれば、同級生との相互受容・相互理解や人間関係の課題が背景に考えられる。

【いじめアンケート(9月実施)】

結果⇒1年生で1件（いじめ認定はしないが要経過観察）、3年生で1件（いじめと認定するが解決済み扱い）

・1年生…女子生徒1名より「『同級生からで冷たくされる』と友人から相談された」という訴え。

人間関係における生徒の成長につながるよう、学年団を中心とした声掛けや組織的な対応を進める。

・3年生…4月実施時に「同級生間の“いじり”が度を過ぎているのではないかと訴えが1件。指導済み。

※どちらの事案も経過観察は継続。教職員間の細やかな生徒観察・情報共有から迅速で組織的な対応が可能な体制づくりを進める。

【生徒会主催の生徒集会の充実】

・いじめ撲滅集会(5月、9月実施)

⇒縦割班でいじめ撲滅ツリーを作成し、いじめ撲滅スローガン「こそあど」からいじめ撲滅に向けた具体的な行動の在り方を検討した。どの班も上級生がリーダーとして班員に声をかけ、意見の交流を深めることができた。

・異学年交流集会(7月実施)

⇒コンセンサスゲームの取組を通して、協力して問題解決に向かい、相互理解や絆を深めることができた。また、上級生のリーダー性の伸長にもつなげることができた。

※後期は生徒集会を2回（うち1回は三送会）予定している。校則を考える会等を含めた、「認め合い、支え合い、」未来を切り拓く生徒の育成につながる生徒集会の実施を検討・実施していく。

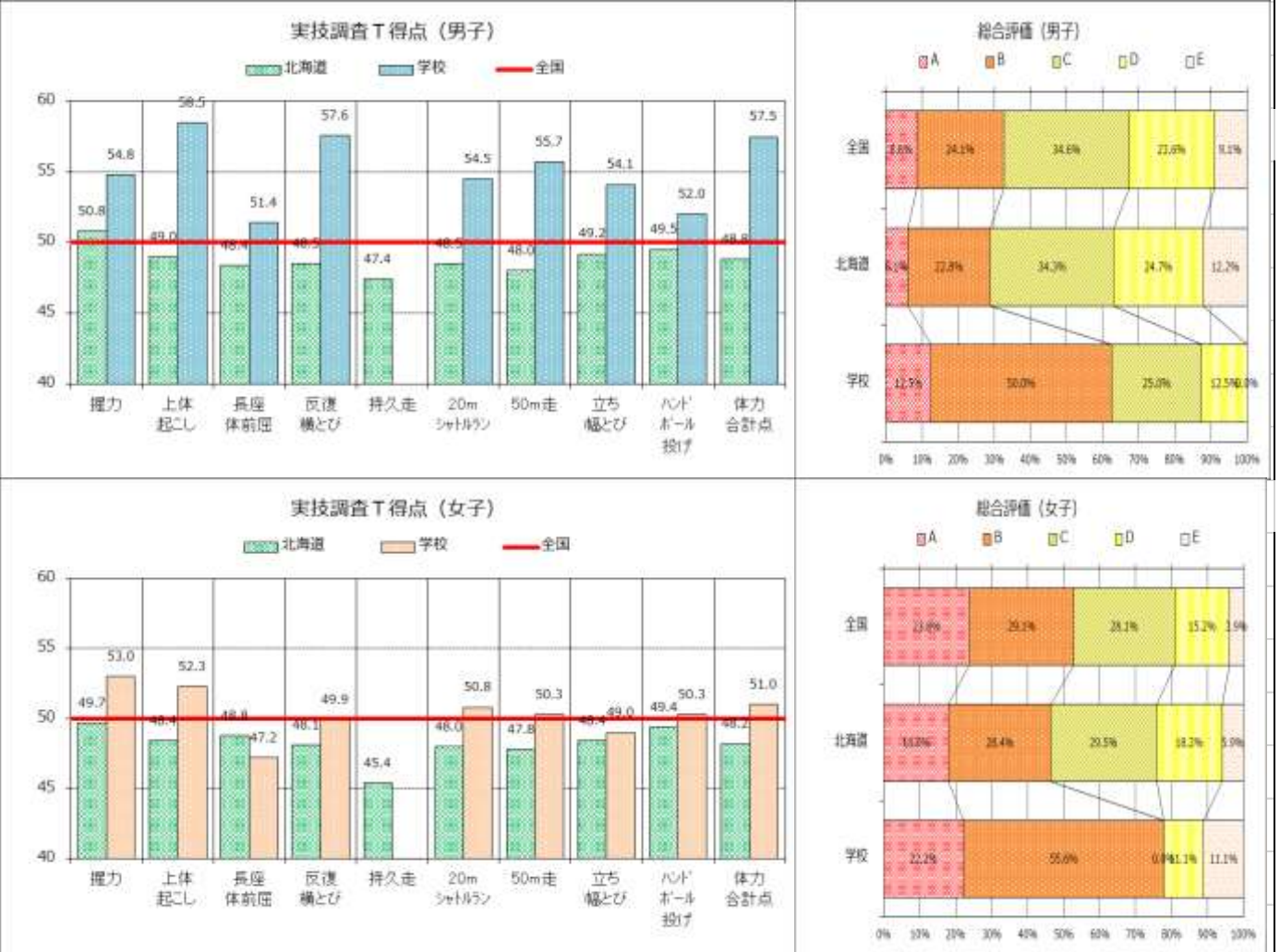
【健やかな体】

令和6年度 福島町立福島中学校学校 体力向上プラン

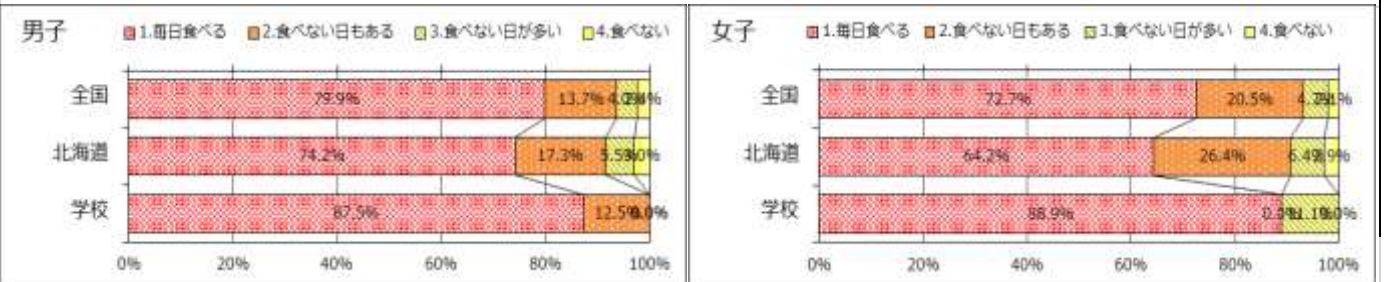
1. 本校の児童生徒の体力・運動能力等に関わる現状

○ 体力・運動能力や運動に関する意識(内面)、生活習慣、運動習慣等に関わる現状

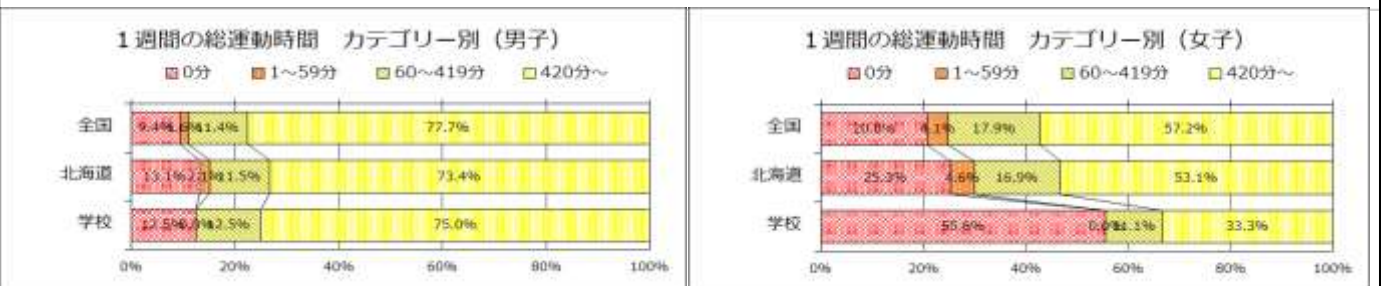
【体力・運動能力の現状】



【朝食の摂取状況】



【運動の実施状況】



2. 自校の児童生徒の体力・運動能力等の現状から分析した課題

○体力・運動能力等に関わる課題	○生活習慣や運動習慣に関わる課題
<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に女子の体力・運動能力が低い。 ・女子では、反復横とび立ち幅とびなどのタイミングよく体を動かす能力に若干の課題がある。 ・長座体前屈の柔軟性を必要とする種目に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動時間が、60分未満の生徒の割合、特に女子が多い。

3. 自校の児童生徒の体力・運動能力等に係る目標

○体力・運動能力等に関する目標	○生活習慣や運動習慣に関する目標
<ul style="list-style-type: none"> ・運動に興味・関心を持ち、自ら積極的に参加する生徒の育成。 ・体力や運動能力を向上させる。 ・全校生の新体力テストの総合評価A、Bの数値が実施者数の男子70%以上、女子80%以上めざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起き、朝ごはん運動 ・ノーゲームデーの設定 ・体力向上強調習慣の設定（徒歩や自転車通学の推奨） ・体育の授業が楽しいと答える生徒の割合が65%以上にする。

4. 自校の児童生徒の体力・運動能力等に関する目標達成状況

○体力・運動能力等に関する目標の達成状況に対する評価指標	○生活習慣や運動習慣に関する目標の達成状況に対する評価指標
【評価方法】	【評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> ・前後期の新体力テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト ・学級アンケート
【成果指標】	【成果指標】
<ul style="list-style-type: none"> ・男子では、全ての項目において、北海道・全国平均以上。 ・女子では、握力、上体起こしで全国平均以上の30%以上。 ・一週間の総運動時間420分以上が、75%以上。 ・総合評価A、Bの数値が実施者数の男子62.5%、女子77.8%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・睡眠時間に関しては、男子は7時間睡眠の生徒が62%、女に関しては、11%。 ・朝ごはんに関しては、男女とも85%が朝ごはんを食べる習慣が定着している。 ・ノーゲームを実践している生徒は0%、男子では、1時間以上2時間未満が50%、女子では、2時間以上3時間未満が44%の生徒が動画やゲームを行っている。 ・授業が楽しいと答えた生徒は、50%。
【評価結果】	【評価結果】
中間評価（10月）・最終評価（2月）	中間評価（10月）・最終評価（2月）

5. 自校の児童生徒の体力・運動能力等に応じた具体的な取組

<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業（3分間走などの体づくり運動の継続および各種学習内容の充実） ・音楽に合わせて走る「ビートトレーニング」を実施する。 ・新体力テストの分析及びそれを生かした体育授業の実施 ・部活動（放課後、休日での継続実施） ・全国体力、運動能力、運動習慣等調査結果からの体力向上プランの見直し ・保健学習においては、生涯にわたり、運動やスポーツの意義や効果、健康な生活に必要であることを理解させる
--

6. 次年度に向けた具体的な取組の改善・充実

<p>評価方法に関しては、新体力テストの項目と学校独自で行うアンケート調査を行っていきたい。</p>
--

Goal (目標設定) 実施期間中における目標

【確かな学力】

令和7年度4月において、つぎの2点を実現できるよう、研修を中心とした日々の授業改善を図る。

- ・標準学力検査 教研式CRT(1・2年) ⇒全国平均を超える
- ・全国学力・学習状況調査(3年) ⇒全国平均正答率を超える

【豊かな心】

- ・未来をみつめ自ら学ぶ生徒の育成
- ・多様性を尊重し、お互いに高め合う生徒の育成

【健やかな体】

- ・令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査で、1項目でも多く全国平均を上回るための指導の実現

Plan (計画) 目標達成に向けての計画

【確かな学力】

- (1) 個の実態に応じた多様できめ細かな指導体制の工夫
- (2) 目的に応じた課題設定やまとめ、振り返り活動の徹底
- (3) 家庭と連携した家庭生活および家庭学習習慣の向上
- (4) 教師としての資質や専門性を高める研究・研修活動の充実

【豊かな心】

- (1) 集団づくり・授業づくりを通じた未然防止的な生徒指導
- (2) 命の大切さや自らの生き方を前向きに考える教育活動
- (3) 生徒主体による教育活動(生徒会活動)の充実

【健やかな体】

- (1) 福島中学校体力向上プランの確実な実施
- (2) 校区内小学校との連携
- (3) 保健体育の授業の工夫改善

Action (具体方策)

【確かな学力】

- (1) 個の実態に応じた多様できめ細かな指導体制の工夫
 - ・基礎基本を確実に身に付け、「わかる」「できる」を感じさせる授業実践と評価の工夫
 - ・ICT機器を効果的に活用し、学習意欲を喚起する授業の実践
 - ・学習指導員による支援が必要な生徒へのサポート
- (2) 目的に応じた課題設定やまとめ、振り返り活動の徹底
 - ・「自分の理解状況を確認する振り返り」や「学習内容を既習の知識や実社会、自らの生き方と関連付ける振り返り」、「自己変容を自覚する振り返り」等の場面の意図的な設定
 - ・自らの学習を調整する力や仲間と粘り強く学ぶ力の育成のため、ICTを活用した効率化と双方向での授業体制の確立
- (3) 家庭と連携した家庭生活および家庭学習習慣の向上
 - ・学習アプリを活用した家庭学習の取り組みと個に応じた指導の充実
 - ・委員会活動と連携した学力向上を目指す全校的な取り組みの計画と実施
 - ・長期休業期間中の学習サポートへの取り組み(ICTの活用含)
- (4) 教師としての資質や専門性を高める研究・研修活動の充実
 - ・全職員が研究授業を実施し、事後研を通じて互いに高め合う校内研究の充実
 - ・組織的な新任者研修、メンター研修の充実
 - ・学校外での研修会等への積極的参加と校内への還元、実践

【豊かな心】

- (1) 集団づくり・授業づくりを通じた未然防止的な生徒指導
 - ・生徒と教師の望ましい人間関係の構築
 - ・いじめや問題行動未然防止のためのふれあい活動の充実
- (2) 命の大切さや自らの生き方を前向きに考える教育活動
 - ・道徳科の授業の質の向上
 - ・ローテーション授業を行い、全職員で取り組む姿勢作り
- (3) 生徒主体による教育活動（生徒会活動）の充実
 - ・年間行事の見直し
 - ・見直しのもてる計画作り

【健やかな体】

- (1) 福島中学校体力向上プランの確実な実施
 - ・新体力テストを全学年で年3回実施
- (2) 校区内小学校との連携
 - ・W-UP（3分間走の実施）
 - ・体力テストの結果交流
- (3) 保健体育の授業の工夫改善
 - ・新体力テストの実施
 - ・授業導入時の体づくり運動の継続

Check（検証） 月別計画

【11月】 チャレンジテストの実施（登録あり）

【1月】 チャレンジテストの実施 3年生（登録あり）
全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果を踏まえ分析。

【2月】 チャレンジテストの実施 1, 2年生。次度に向けて、これまでの取組を振り返り、改善策を検討。

【3月】 全国体力・運動能力、運動習慣等調査の分析をもとに作成した体力向上プランの提案。

Goal（目標設定） 目標の再設定

- 全国学力・学習状況調査、教研式学力検査の結果、日常の学習状況・定着状況を踏まえた目標の再設定。
- 半年ごとの改善プランの見直しにおけるPDCA検証サイクルの実施。
- 教育課程編成や単元計画作成の充実と、定期的な見直しによる魅力ある授業づくりの工夫・改善。